

平成30年度生駒市立病院管理運営協議会第1回会議会議録

- 日 時 平成30年4月10日（火）午後8時00分から午後9時35分
- 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター

■ 出席者

- (1) 会 員 小紫 雅史、城谷 学、山上 正仁、成田 研二、前野 見依子、佐野 いづみ、藤堂 宏子、藤澤 清二、竹川 正英
- (2) 事務局 【生駒市】山本副市長、古川特命監、影林福祉健康部長、杉浦福祉健康部次長、石田地域医療課長、桐坂地域医療課長補佐、伊藤地域医療課主幹、奥野病院事業推進係主査
【指定管理者】前田事務部長、長谷川事務長、辻川看護部長

- 欠席者 遠藤 清
- 傍聴者数 5名
- 会議の公開・非公開の別 公開
- 会議の内容

1 開会

生駒市立病院管理運営協議会設置要綱第6条第3項の規定により、過半数の会員の出席で会議が成立していることを確認。配布資料の確認。

(配布資料)

- 平成30年度生駒市立病院事業計画書
- 平成30年度生駒市立病院事業計画書説明資料

2 会員紹介

【事務局】 会議次第2としまして、会員紹介をさせていただきます。

協議会設置要綱第5条の規定により、会長は市長、副会長は市立病院の院長をもって充てることになっております。

会員の交代があり、新たに会員となられた方をご紹介します。

医師会等医療従事者として、近畿大学医学部奈良病院病院長 城谷学様でございます。

【城谷会員】 近畿大学医学部奈良病院病院長を拝命いたしました城谷学と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局】 地元自治会を代表する者として、東生駒自治会長 竹川正英様でございます。

【竹川会員】 皆さんこんばんは。東生駒自治会長の交代があり、参加させていただくことになりました。以後どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 城谷様、竹川様、よろしく願いいたします。

3 会議内容の確認

【事務局(市)】 次第3、「会議内容の確認」につきまして、本日は新しい会員の方がおられますので、当協議会の会議内容について簡単にご説明申し上げます。

当協議会は市立病院の管理運営に関する事項について協議し、市民等の意見を反映させることで健全な管理運営及び市民参加の病院を実現することを目的として設置されたものでございます。

協議内容は、病院事業計画の実施状況に関すること、協定書に定める事業計画及び事業報告に関すること、市民等からの意見及び提案等に関すること、その他管理運営に関することとなっております。

会議の開催は年3回を予定しており、7月ごろに前年度の事業報告、11月ごろに当年度の中間報告について実施状況調査を行い、会員の皆様から事業に対する評価や課題等についてご意見等をいただき、次の年度の事業計画に反映させていくというPDCAサイクルを構築しております。

本日は前年度の会議でご意見等をいただいた評価や課題に基づき作成された、平成30年度事業計画書について報告するものです。

それでは、以後の進行は協議会設置要綱第6条の規定により、会長が議長となりますので、市長よろしくお願いいたします。

4 案件

【小紫会長】 皆さん、改めましてこんばんは。大変お忙しい中、平成30年度として1回目になりますが生駒市立病院管理運営協議会にご出席いただきましてありがとうございます。

ただいま紹介がございましたが、城谷様、竹川様には新たにメンバーとして参加いただきました。今までの管理運営協議会でさまざまなご指導、ご指摘、叱咤激励をいただきながら少しずつ前に進んできたということがございますけれども、今までも大変お力をいただいております会員の皆様ともども、忌憚ないご意見をいただきますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

遠藤院長が就任されてから、ますますいろいろな形で改善されていく部分も多くあります。収支的にも改善が明らかになってきているということがございますし、いい形で進んできているのは間違いないと思っておりますが、まだまだ市立病院が抱える課題が残されているのもまた事実でございます。

この管理運営協議会は、市民の皆様、そして医療関係の先生方に参加いただいておりますので、あるときは専門的なご議論、あるときは本当に市民の皆様、患者の立場からのご意見、両方あるというところに大きな特徴があるのではないかと考えております。開催当初はなかなか意見が出なくて、どういうふうな形で進んでいくのかなとちょっと心配していたところもあります。最近では活発にご意見を皆様からいただくようになり、病院事業計画に反映していきながらPDCAを回しているといういい流れができてきているのではないかと考えております。

新年度が始まり、市立病院がこの一年また大きく飛躍をして、さらに地域との連携、地域の診療所、病院との連携も含めて発展していきますよう、引き続きご指導賜ればと思っております。

本日の案件は平成30年度の生駒市立病院の事業計画書について報告を受け、意見交換、質疑応答をするということでございます。毎年度11月ごろに当年度の病院の

中間報告をして、前年度の成果とかいろいろな状況もあわせてですけれども、11月に去年であれば29年度の中間報告をして、それを受けて30年度以降どういう形のことをしていくのかというようなご議論をいただいて、それが平成30年度の事業計画書に反映をされているはずでございます。なので、その説明を聞いていただきまして、また今年度の事業を進めていくに当たり、皆様からご質問、またご意見等いただきながら、今年度もしっかりと事業を進めていくという、そういう流れでございますので、いろいろご質問等、ご疑問点ございます場合は忌憚なくご質問いただきますようお願いを申し上げます。

本日の会議は、事業計画書につきまして説明を受け、会員の皆様から、項目ごとに質問をいただく流れとなります。

それでは、事務局から概要の説明をよろしくお願いいたします。

【事務局(市)】 それではよろしくお願いいたします。

お手元の資料の「平成30年度生駒市立病院事業計画書」は、1の医療提供計画、2の施設管理計画、3の組織図、4の収支計画の4部構成となっております。事業計画の策定に当たりましては、平成28年度と平成29年度上半期、中間期ではございますけれども、それにおける市立病院から提出されました事業報告書に対して実施状況調査を行い、当管理運営協議会にていただきましたご意見や評価、結果を平成30年度の事業計画に反映させた内容となっております。

次に、A3版の「説明資料」では、どのように計画に反映させているかなど、内容が一覧で分かるように配布をさせていただいております。

「説明資料」の表左端から病院事業計画、平成28年度事業報告、平成29年度の中間報告、そして平成28年度、平成29年度それぞれの課題を記載しています。太枠で囲んだ一番右端の部分が平成30年度の事業計画の内容となっております。

課題がどのように計画に反映されているかが分かるように、課題に対して計画に反映させている部分を下線表記としています。また、数値目標など今までの年度事業計画から30年度の事業計画に新たに追加しました項目につきましては、ゴシック・太字で表記をしております。

【事務局(指定管理者)】 では、「説明資料」の項目順に従いまして説明させていただきます。

「診療科目」につきまして、平成30年度は平成29年度から引き続き16診療科で診療を行います。

本年度はこれら既存の診療科の診療内容の充実を図るべく常勤医師の確保とともに、より高次、専門性の高い医療機関との連携体制の構築を図ります。

次に、2ページの「病床数」では、重症患者の増加に対応できるようHCU7床を稼働することで210床をフルオープンし、市外・県外への流出患者の市内回帰を目指します。また、既存病床の稼働率の向上も目指します。

平成30年2月に1日最大入院患者数が160名、病床利用率は78%を記録しました。今年度の最終目標は80%を目指します。

続きまして、3ページの「人員体制」は、常勤医師は合計で28名を目指します。診療科ごとの内訳といたしましては、前年度の計画の診療科ごとの内訳の内容に皮膚科1名を加えたものです。

3月末現在、非常勤医師を常勤換算すれば、医師数は24名となります。「参考資料」①の数値になります。

さらに、4月以降、既に内定をしている医者が2名、交渉中の医者が1名いる状況です。また、平成30年10月からは奈良県立医科大学より形成外科後期研修医1名が定期的に当院で研修を行うことが決まっており、形成外科領域だけでなく、救急及び当直でも活躍が期待されているような状況です。

なお、これら医療従事者の確保、とりわけ医師の確保につきまして、特に常勤医師が不足している脳神経外科、小児科、整形外科、産婦人科、消化器内科、麻酔科を中心にグループ他病院からの人事異動の要請、勤務希望者の募集、大学等の関係機関への継続した働きかけを引き続き行ってまいります。

また、課題として挙げられていましたリハビリテーション科につきまして、土曜・日曜・祝日の稼働につきましては、土曜は既に稼働しており、理学療法の日曜・祝日の実施を目指し、理学療法士の増員を図ってまいります。

続きまして、4ページの「患者数」でございます。「参考資料」②の前年度実績をご覧ください。

一日の平均患者数は前年度の下半期実績を踏まえ、年度当初は、入院140.1人、外来178.8人から始まり、年度末には、入院168.0人、外来204.5人を目指す想定で、年間の一日平均患者数が入院150.1人、外来192.0人でございます。

また、入院・外来患者数の増加に向けた取り組みとしまして、市立病院の医療に関する必要な情報の積極的な提供の取り組みといたしまして、ホームページに加え、ツイッターやフェイスブックの配信、定期的な「病院だより」の発行、電車車内広告の掲示等といった広報活動の充実や、地域での医療講演の実施、地域の機関への周知の取り組みとして、地域の医療機関への訪問を強化して情報提供の推進を行ってまいります。

続きまして、市立病院のコンセプトの「質の高い医療の提供」では、本年度においても引き続き、安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、最新の医療機器の配置、経験豊富なスタッフによるチーム医療により、患者にとって最適な治療・ケアを提供してまいります。

本年度の手術件数の目標ですが、「参考資料」の③の前年度実績をご覧ください。

今まで循環器疾患の治療を含めていませんでしたが、循環器疾患の治療も含めた計画として、全体で1,750件を目指します。また、このたび診療科ごとの目標値も掲げております。

また、導入予定機器として、乳がん検診の実施に備えて乳房X線撮影装置を予定しております。

また、このたびの年度計画では、県の地域医療構想や保健医療計画で医療提供体制の整備が掲げられている4疾病、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病について、「主要疾病(4疾病)に係る医療体制」として市立病院で提供できる医療機能や役割を明記しております。

がんにつきましては、市立病院では現在標準的治療として、手術療法、外来化学療法を行っており、数年後を目標に放射線治療の実施を計画しています。

さらに患者のQOL向上を目指し、窓が多く開放感のある化学療法室を配備しており、将来的には緩和ケア病床、または緩和ケア病棟等の緩和ケア体制の整備を考えております。そして、現在充足されていない部分、放射線治療等ですが、これに関しましては、地域がん診療提携拠点病院である近畿大学医学部奈良病院との連携のもと、標準的な治療を実施してまいります。

患者満足度の向上につきましては、入院・外来患者アンケート調査結果、ご意見箱の投書内容等、調査の結果が「参考資料」の④のとおり出ております。

それにつきまして、ホームページや情報モニター、病院だよりでの公表、また自動精算機の利用促進など、待ち時間解消策の実施などを掲げております。当院の待ち時間のデータにつきましては「参考資料」⑤をご参照ください。

続きまして、6ページの「医療安全管理体制」につきまして、市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指して、医療安全管理委員会、カンファレンス、ラウンド、勉強会を定期に実施し、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めます。

また、前年度に課題として挙げられていました医療安全に関する市民への情報公開の方法等につきましては、情報の出し方いかんによっては市民の皆様には正しく伝わらないこともございますので、引き続き慎重に検討させていただきたいと存じます。参考までに昨年インシデントとアクシデントの報告数は、平成27年度で316件、平成28年度で311件、平成29年度に関しましては413件の報告数がございます。

また、前回報告させていただきましたワクチン接種時における針刺し事故につきまして、その後の経過をご報告させていただきます。

肝炎ワクチンの接種と今年9月まで血液検査で経過観察をさせていただいており、幸い今のところ感染は確認されておりません。

事故対策といたしまして、マニュアルを見直し、複数名での確認と使用物品の速やかな廃棄など、事故が繰り返されないような運用に切りかえております。

続きまして、7ページから8ページをご覧ください。

地域完結型の医療体制構築への寄与としまして、本年度も地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ります。

具体的には、課題でも挙げられています「地域包括ケアシステムの実現に向けて市立病院の果たすべき役割」として、在宅患者やそのかかりつけ医をサポートする後方支援病院としての役割を果たすため、在宅患者等の増悪時の積極的な受入れや院内の入退院支援チームの推進、市の入退院調整マニュアルの積極活用により、円滑な入退院の推進を図ります。

地域医療機関への医療教育プログラムの提供につきましては、TCLSなどプログラムの充実を図り、地域の医療機関へのPRを強化し、地域の医療従事者の参加を促進します。

また、8ページでは、医療機器のオープン利用件数、医療連携登録医及び協力医療機関連携施設の登録数、紹介率、逆紹介率につきましてはご覧のように数値目標を設定させていただき、目標達成に向けて具体的に組み立ててまいります。これは「参考資料」の⑥をご参照ください。

その一つとして、地域医療連携室を1階に移動し、地域の先生方が気軽に来院していただき情報共有ができる体制整備や、専任職員の増員による紹介・逆紹介体制を確立いたします。

また、病診・病病連携に加え、介護事業者との円滑な連携を推進するツールである「やまと西和ネット」への参加に向けて手続を進めてまいります。

続きまして、9ページ「救急医療の充実」でございます。

救急医療については、本年度も基本方針である「断らない」救命救急体制の実現を目指し、県総合医療センターを中心に体制整備がされていることから、市立病院では地域の救急患者さんのファーストコール対応をしっかりと行い、できるだけ早期に検査、診断、治療ができる体制を確保するなど、傷病者の状態に応じて適切な救急医療を実施しつつ、必要に応じて県医療総合センター、近畿大学医学部奈良病院との連携で対応いたします。救急の資料につきましては③をご覧ください。

また、市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き関係機関との協議を行うとともに、救急患者様の市内受入率の向上を目指し、輪番病院のバックアップの役割を果たします。

続きまして、救急に対する人員体制ですが、夜間の救急受入体制として、本年度は医師2名体制を確立します。

また、看護師のほか放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員の当直体制で、CT、MRI、X線、血液等の諸検査や緊急入院に対応可能な体制を継続します。

続きまして、11ページをご覧ください。

小児医療体制については常勤医師2名体制を目指し、小児の入院患者の受入れ、小児二次救急輪番体制への参加を目指します。これは「参考資料」の⑦⑧をご参照ください。

災害時医療の確保では、生駒市立病院災害対策マニュアルに沿って現場スタッフによる実地訓練を行います。

予防医療の啓発では、市民への予防医療の啓発として、月に4回程度の医療講演のほか、認知症やうつ病、発達障害など、市民の要望が多いものの市立病院スタッフでは対応できない分野についても市が実施する医療講演を支援いたします。

また、乳がん検診など市内で実施できる医療機関が不足している検診で、市立病院で未実施の検診については実施体制の整備とともに関係団体等と協議を行い、実施を検討いたします。

なお、胃内視鏡検診については昨年8月から実施しております。

12ページの市民参加による運営では、市民の意見の反映の仕組みといたしまして、入院・外来患者アンケート調査の結果、ご意見箱の意見及び改善の取り組みについて、院内掲示、ホームページでの公表、病院事業推進委員会や市立病院管理運営協議会への報告など、広く市民等に周知いたします。

また、市民交流事業として、健康フェスティバルや院内コンサートなどの開催を予定しております。

次に、「環境に配慮した運営」はご覧のとおりでございます。

続きまして、本事業計画書の10ページの「2. 施設管理計画」をご覧ください。

昨年度同様、保守点検項目や点検時期などを細かく計画に明記し、施設や設備の計画的、効率的な維持管理を推進させていただきます。

なお、外部委託業務内容は11ページの「3. 組織図」の右下に記載しております。

続きまして、「4. 収支計画」でございます。

最後のページをご覧ください。

年度の中間期、9月末と期末期の3月末の収支計画を表記しております。

まず、中間期の平成30年度9月末時点での収支見積もりでございますが、一日平均入院患者数は上半期の平均で143.4人、外来患者数は181.5人としております。

入院患者数、外来患者数の増加想定に伴いまして、上半期の診療収入は17億2,511万円を見積もっております。

表の真ん中あたりの医業費用合計は人件費の8億9,726万円を含め、上半期で17億5,760万円と見積もっており、医業利益としてはマイナス962万円を想定しております。

また、その他費用、医業外収益、医業外費用を差し引きし、上半期の時点で経常利益としては、マイナス1,631万円を想定しております。

次に、期末期の平成31年3月末時点での収支見積もりでございますが、一日平均

入院患者数は、年間平均で150.1人、外来患者数は192人としており、平成30年度の診療収入は36億2,524万円と見積もっております。

表の真ん中あたりの医師、入職を含めた人件費、それから医療機器の導入費用を加味して医業費用合計は36億1,727万円と見積もっており、医業利益としては5,806万円を想定しております。

また、その他費用、医業外収益、医業外費用を差し引きし、平成30年度は4,468万円の経常利益を見込んでおります。

平成31年度からは建物、設備の減価償却費相当額として指定管理者負担金、年額2億6,500万円が発生していきます。それまでに経営を安定すべく努力をいたします。

平成30年度生駒市立病院事業計画書については以上でございます。ありがとうございます。

【小紫会長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま説明がございました平成30年度の事業計画書につきまして項目ごとに質疑応答していく流れで進めてまいります。

もう少し詳しく聞きたいというようなご質問も含めまして、よろしく願いいたします。

それでは、1つ目の診療科目につきまして、ご質問等のある方はございますか。よろしいですか。

では、病床数につきましてございますか。

【藤堂会員】 現状をお伺いしたいのですが、小児科の入院患者さんというのは、おおよそどのような年代の方が多いのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 年齢につきましては、比較的若いお子さんが多いです。患者数につきましては、資料にグラフをつけさせていただきましたが、特に冬場で感染症の方がよく入院されております。

【藤堂会員】 例えば乳幼児から小学生とかいろいろありますけれども、それは、ばらつきがあるということですか。

【事務局(指定管理者)】 そうですね。

【藤堂会員】 分かりました。

【小紫会長】 ほかによろしいでしょうか。

次の人員体制ですが、こちらについてのご質問はございますか。

では、成田会員、お願いします。

【成田会員】 入院していますと、看護師さんにお世話になることが大変多くて、看護師の確保というのも非常に大きな課題だと思いますが、具体的に学生実習の受入れ等のようなことをされているのかというのを教えていただけますか。また、あわせて、患者としての心得があれば教えていただきたいのですけれども。

【事務局(指定管理者)】 看護師の確保では、実習生の受入れをしております。本年度に関しまして、5月から11月まで8校の実習の受入れをする予定です。内訳としましては、大学が3校、短期大学が1校、専門学校2校、通信制学校2校となっております。基本的に奈良県内の学校から受入れしようということとさせていただきます。また、高校生や中学生の職業体験も受入れをさせていただいており、体験にいられて医療職を目指したいという生徒の方々も増えてきていると感じております。

採用に関しましては自己応募という方を採用していきたいと思っております。ご存じかどうか分かりませんが、紹介業者からの紹介も看護師の分野におきましてもあるのですが、できるだけ経費がかからないようにと考えております。

患者様にお願いしたいことは、実習生にちょっと優しく受入れしていただくとか、新人看護師も今年10名入職しており、新人であろうがベテランであろうが、私たちは職業人としてはきちんとやらないといけないことはあるのですが、メンタルがちょっと強く持てないと難しいかなという面もあります。そのあたりは受入れていただくとありがたいです。患者様からの「ありがとう」という言葉が看護師の栄養ドリンクになりますので、その言葉がけがあればうれしいというように思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。平成29年度の間接報告を見ると、看護師は105.8名という数字があり、平成30年度の事業計画書では147名。かなり増やすというか数が多くなるのですが、看護師の数もこの平成29年度の間接報告からの約半年でこれだけ増えていますよということを、教えていただければ、平成30年度の目標に向けていい形で推移していますよということで皆さんご安心いただけるのかなと思います。

【事務局(指定管理者)】 18名増えています。全体の数としては現在140名になります。

【小紫会長】 147名という目標が計画書にありますが、それに近い人数までに達しているのだから、看護師さんも順調にいい形で入職いただいご活躍いただいているということではないでしょうか。

人員体制のところでは会員の皆様からありますでしょうか。それでは、城谷会員、どうぞ。

【城谷会員】 HCUが7床ということですが、ここに対しても10対1の看護基準の配置になるのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 HCUに関しましては、4月1日付でオープンしております。10対1になります。210床で、10対1の届出をしております。

今月の実績をもって来月5月にHCUとして施設基準に係る届出を行うところです。

【城谷会員】 ありがとうございます。

【小紫会長】 それでは、人員体制は以上とさせていただきます。

4つ目の項目でございますが、患者数について何かございますか。

山上会員、お願いします。

【山上会員】 先ほどのところとも関係するのですか、小児科の常勤医師が来られたということで、1日平均で何人入院されていることになるのでしょうか。といいますのは、今年度フルオープンということで計画を立てられているのですが、小児科が当初計画では20床ぐらいありました。フルオープンの目標が5床になっていまして、実際需要がどれぐらいあるのかを見込んでの5床ということかとは思いますが、本当にこれでいいのかという。二次輪番も考えているというようなお話なのですが、実際、常勤の医師が1名おられたら、1名では非常に大変だと思うのですが、それでも10人近くは診られるのではないかと思います。手術中のため院長にお聞きできないのですが、1日当たりの入院日数とベッド数はこれでいいのかというところをお伺いできますでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 1日の最大は4人の入院がありました。

【山上会員】 平均したらもっと少ないですね。それでは、このベッド数で二次輪番をしていくというようなことはいかがでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 なかなか常勤が1名体制では厳しい状況なので、徐々にある程度なれてからという状況もあります。その辺も踏まえて考えているところです。医師からも、もう1名常勤を増やしてほしいという要望は聞いており、募集も含めて今求人をかけているところでございます。

【小紫会長】 今は、常勤医師は1名なので、今の体制だとなかなか厳しいのはそのとおりだと思います。もともとの病院事業計画に輪番のことも書いてあります。体制を整えてそういう方向でやっていくというのはもちろんそうですけれども、そのときベッド数とか、いろいろ議論はあるとは思いますが、今の時点ではそのぐらいでよろしいですか。

それでは、患者数の部分はよろしいですか。

藤堂会員、どうぞ。

【藤堂会員】 「説明資料」の4ページに周知の取組ということで、SNSとか鉄道車内広告等と記載してありますが、車内広告をしているのが市内を通り抜けていく路線なので、その広告の目的というのが、生駒市民以外の人にもたくさん電車には乗っておられますので、そちらのほうから患者さんと呼び込むための目的のものなののでしょうか。もし生駒市民からの患者さんというターゲットであれば、電車よりはバス等の広告のほうが効果あるような気がします。その辺はいかがでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 今まで車内広告を出していなかったのですが、当院が駅から近いということがありまして、電車内に広告を出したような状況です。実際それによって患者数がどれだけ見込めるかということにつきましては、1年間の様子を見てという形になります。

当然、バスの広告もあるのですが、まずは鉄道車内広告の次のステップとしてバスの広告を考えることになるかと思います。

【藤堂会員】 ありがとうございます。ホームページについてですが、少し困難な部分はあるかと思いますけれども、医療スタッフの写真などをホームページに掲載するこ

とが可能であれば、見た人はちょっと親しみを感じる部分もあるのかなと思います。

他病院のホームページを見ると、診療科の看護師も含めて集合写真を載せているところもありますし、何かその辺も今後ご検討いただければと思います。

【事務局(指定管理者)】 ありがとうございます。ホームページに関しまして、以前のデータが残っているところもあり、当然それも含めて見直しを図っていきたいと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。周知の方法も、ホームページやフェイスブックであるとか、「病院だより」、鉄道車内広告等いろいろ工夫してチャレンジしていただくというようにお聞きをしておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、新病院のコンセプトの質の高い医療の提供のページでの内容につきまして、ご質問はありますでしょうか。

竹川会員お願いします。

【竹川会員】 導入予定機器のご説明の中で、乳房X線撮影装置とありますが、どのようなタイプでしょうか。

マンモグラフィーとかは挟まれて検査は非常に苦痛だということで、そういうことを解消するために、うつ伏せになって痛みを全然感じずに検査できる機械が実用化に向けて開発されているというのを最近テレビで見ました。

非常に女性の関心が高いと思いますが、検診を受けてない人というのが非常に多い。このタイプなら、痛いから行かないということで踏みとどまっている人を検診に向かわせるという効果が非常に大きいのではないかなと思います。コストがどうかということは分かりませんが、どういう機器になるのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 マンモグラフィーに関しましては、今は各社から説明を聞いているところであり、実際にどの機種にするのかは、これから検討するような段階です。

今お話がありました痛くないマンモグラフィーの話もでてくるかもわかりませんが、まだそれがどの程度の段階で実際実用化になっているかどうか等々、各社からプレゼンテーションを聞いているという段階です。

【小紫会長】 最新型の痛くないうつ伏せで検査できる機器を導入している病院の話も私も聞いたことがあります。そのあたりについても確かに非常に関心が高いものかと思っておりますので、またひとつ、今のご意見を踏まえてよろしくお願いをいたします。

それでは、佐野会員、お願いします。

【佐野会員】 昨年度のワクチン接種のときのアクシデントについては報告していただきありがとうございます。実は私自身も医療関係で昔働いていたことがありまして、アクシデント・インシデントは絶対出てくるものです。だから、それを隠さないで、これから公表していかれたほうが、質がもっといい、例えば予防する方法とかいろいろ出てくると思いますので、何かそういうのを結びつけていただくと安全性の高い医療ができるかなと思っております。

【事務局(指定管理者)】 ご意見ありがとうございます。公表につきましては、前回の会議等からも引き続きの案件でありまして、こういった形で公表すべきかというのはまだ検討している途中でございます。何らかの方法で結論を出したいと思っております。

【小紫会長】 ありがとうございます。遠藤院長からもこの件についてはしっかりと情報提供も含めて考えていきますということを私もお聞きもしております。今ご意見いただいたように、我々の市役所としてもそういうトラブルとかミスとかそういうものがあって、きちんとオープンにして速やかにというのが基本かと思っております。

逆にそういうアクシデント・インシデントが、ゼロとかないとかいうほうが大丈夫ではないのではと思っております。例えば、いじめの件数も生駒市は非常に多いということですが、それは小さなものまで全部きちんと調べて報告するというところでやっております。市立病院につきましても基本的にはそういうスタンスでいきたいなというように思っております。

具体的な出し方とか、もちろんいろいろと検討させていただきますが、方向性としては今会員がおっしゃったとおりかと思っております。

どうぞ。

【藤堂会員】 5ページの主要疾病に係る医療体制に、近畿大学医学部奈良病院との連携というのが、がんと脳卒中のところに記載していただいておりますので、今ちょっと近畿大学医学部奈良病院の病院長に出席いただいておりますので、協力体制というのは現状でどの程度進んでいるのか、言える範囲内で教えていただけますでしょうか。

【城谷委員】 私どもの病院にはがんセンターがありまして、患者支援センターを通じてご紹介いただければ、そこで最先端の医療を提供することができます。それから脳卒中につきましては、このたび脳神経外科に新たにスタッフが増えまして、そういう専門的な医療も可能な体制がとれるようになったということで、病病連携は可能だと考えております。

【小紫会長】 ありがとうございます。前回の管理運営協議会だったと思いますが、特に脳神経外科が市立病院の一つの課題だと。その関係でのご協力の話についても具体的にいただいて、そういうことも踏まえておそらく記載していると思っております。今も脳卒中等のお話も院長先生からいただいて大変心強く思っております。何とぞよろしく願いいたします。

ほかによろしいですか。いろいろご意見いただきましたが、地域完結型の医療体制構築への寄与。7ページから8ページにわたっておりますがいかがでしょうか。どうぞ、お願いします。

【藤堂会員】 8ページのところに紹介率・逆紹介率が記載されていますが、逆紹介というのは市立病院で治療された患者さんが、かかりつけ医のところへ戻って治療を継続されるという割合だと思うのです。それとは全く別のことで質問させていただいたのですが、地域の医療機関から紹介されて市立病院で入院なり治療をされて、完全に治癒されて、逆紹介の必要がない患者さんも当然おられると思うのですが、その場合は紹介してくださった先生へ、患者さんはこういう経緯で治りましたよといったような報告のようなものは行くのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 紹介していただきました先生方には、最終的にどうなりましたということは報告させていただいております。

【藤堂会員】 ありがとうございます。やはりそういうやりとりの中で地域の医療関係者との信頼関係ができていくのかなと思い、確認させていただきました。ありがとうございます。

【小紫会長】 前回、山上会員からもご指摘いただいた話だと思いましたが、対応いただいているということで、ありがとうございます。

ほかにいかがですか。どうぞ。

【山上会員】 もう運用が開始していると思うのですが、「やまと西和ネット」への参加について、もう申し込みはされているのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 まだ正式に申し込みはできていません。徳洲会グループのサーバーとの連携があり、システムの連携について調整中です。調整が済み次第、参加の申し込みをしたいと思っております。

【城谷会員】 どうもありがとうございます。当院でも患者さんが来られると、特に紹介で来られる患者さんにつきましては、西和地域では皆さんに加入をお勧めしておりますけれども、まずそれで個人情報が出るということでお断りになる患者さんはおられません。やっぱり自分のためになるという意識が強いので、ぜひ加入いただいて、また患者様にお勧めいただければ、地域としての利益にもなると思います。地域の患者さんのクオリティ・オブ・ライフを高めるものだという有効な手段になると思いますので、ぜひご活用いただければと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

【小紫会長】 ちなみに、生駒市以外でもかなり「やまと西和ネット」に協力的にやっているような感じだと理解すればいいですか。

【城谷会員】 生駒郡、それからもう少し南のほうも少しずつ広げていっている状況です。

【小紫会長】 ありがとうございます。

7ページ、8ページで何かほかにございますか。どうぞ、前野会員お願いします。

【前野会員】 この電子化に逆行するかもしれませんが、例えば奈良県民手帳のように個人が買いたい人が有料で買うといったもの。ドクターにいろんな病状とか手術歴とか書いてもらう。もちろん文書作成料を払うということで、本人が自分の病状を、電子カルテじゃなくて手元で把握するというのは、本人が自分の体を知り、予防医学にもなるかなと思います。生駒市と病院と連携して、自分の傷病手帳というのですか、そういうのもつくってはどうかと思います。

【小紫会長】 そういったものとして今、何かありますでしょうか。

【前野会員】 お薬手帳があります。お薬手帳のもうちょっと違ったバージョンがあったらいいなと思っております。

【小紫会長】 お薬手帳も電子化して、アプリがあったりします。「やまと西和ネット」とかの話とまたちょっと違う形かもしれませんが、薬だけでなく、情報を自分でしっかりと理解していくということですね。少しまた違う話かもしれませんが。そういったご意見もあったということで、これから在宅医療とかなんらかで、自分がどういう薬を飲んでいるかだけではなくて、どういう状況なのかというのを何かきちんと知っておく。本人もそうですし、医師や、退院した後の介護福祉施設でも同じような情報を共有しなきゃいけないという取り組みは今、生駒市も介護と医療の連携の取り組みの中で考えたりしているところです。そことも絡むかもしれませんが、検討しないといけない課題かなというように思っています。

それでは、藤澤会員お願いします。

【藤澤会員】 「やまと西和ネット」の案内を自治会で、各家庭に回覧をしたのですが、「薬局か地域の医療機関の先生のところに申込用紙を置いてもらえないか」ということを聞きました。市の施設にもあると思うのですが、近畿大学医学部奈良病院には「いつでも窓口にあるから来てください」と伺っていますが、PRをもうちょっとしてもらったら、参加してもらえそうな人が増えると思うかなと思います。

【事務局(市)】 申し込みに関しましては、チラシを各公共施設にも置かせていただいております。地域医療課にその申込用紙をご提出いただきましたら、一旦、お預かりして近畿大学医学部奈良病院の担当者にお渡しさせていただきます。

【小紫会長】 チラシだけじゃなく、チラシと申込用紙がワンセットになっていますか。

【事務局(市)】 ワンセットになっております。各公共施設に置いてありますが、申し込みは地域医療課で一旦それをお預かりして、近畿大学医学部奈良病院の担当者に渡しております。直接近畿大学医学部奈良病院の特設ブースに行ってくださいでもいいですし、参加の医療施設にも申込用紙を置いていますので、そこで申し込みしていただくこともできると思います。

【小紫会長】 地域の医療機関の先生のところに、チラシを置いていいよと言ってもらえたら、置いていただくことはできるということですか。

【事務局(市)】 可能ですが、参加の契約をしている医療施設や介護施設等になります。

【小紫会長】 郵送とかファクスとかはだめなのですか。基本的には本人が届けなきゃいけない。何か本人確認とかがあるのですか。

【事務局(市)】 本人確認はございません。持参していただくか郵送になります。ただ、ファクスでの申し込みは控えていただきたいということで、よろしく願いいたします。

【小紫会長】 もし置いておきますよというところがあれば、逆に言っていた

できれば、ありがたく思います。

それでは、9、10ページ目の救急医療の充実でございます。この2ページにつきまして、何かご質問ございましたらよろしく願いをいたします。

よろしいでしょうか。では次のページに行きます。

3つの項目、小児医療の充実、災害時医療の確保、予防医療の啓発の3点につきまして、いかがでしょうか。

はい、藤堂会員お願いします。

【藤堂会員】 予防医療の項目になりますが、医療講演会等をしていただいているということで、参加された市民の方が相談できるような機会があれば、例えば医師の先生が講演されたときに、何か相談できるような時間とかはあるのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 医療講演が終わった後で質疑応答を踏まえまして、講師の者が個別の相談を受けているような状況です。そこに講師以外の他職種の職員がいて相談を受けているかといいますと、まだそこまではできておりません。

また、健康フェスティバルなどのイベントがある際にはいろんな相談窓口を設けて、市民の方の相談を受けようかと、そういう感じで考えております。

【藤堂会員】 何かそういう機会に簡単な相談ができれば。もちろん診療とか診察とかはできないと思いますけれども、例えば看護師さんとかが来ておられて相談できるような機会があれば、PRにもなるし、いいかなと思ったので質問させていただきました。ありがとうございます。

【小紫会長】 ほかに11ページ、何かございますか。では、佐野会員。

【佐野会員】 市民の予防医療の啓発として認知症とか、うつ病とかと記載があるのですが、うつ病に関しては、中学生のお子さんとか思春期の方って結構多くて、例えば生駒市内で診てもらえないといったことを聞いたことがあります。そこで、奈良市のほうに行ったりして、結構場所が分からない方とかもいらっしゃる。多分、認知症に関しても、どこの病院に行ったらいいのかが分からないと思うので、もしこういうところに来られた方にはちょっと詳しくお伝えされるといいかなと思います。意外と皆さん知らない方が多いので。

【事務局(指定管理者)】 ありがとうございます。昨年度に市の主催で、「高齢者のうつ」についてのハートランドしぎさんの徳山院長の講演を市立病院の講堂・交流センターで開催しました。市立病院にない診療科目については、市と協力して講演会をやっていこうという形をとらせていただいております。

【小紫会長】 ありがとうございます。ほかによろしいですか。

それでは12ページにつきましては市民参加による運営と環境に配慮した運営の2点ですが、ご質問はございますか。

よろしいですか。

それでは、「事業計画書」の10ページ目、11ページ目。施設管理計画、組織図、これは特にないなと思います。よろしいでしょうか。

特にないようですので、最後に全体を通して何か質問したいということがありまし

たらお願いします。では、竹川会員からお願いします。

【竹川会員】 病院経営にとって収支計画、これは一番重要なことです。平成30年度末で4,400万円プラスという数字が出ています。上半期で1,600万円のマイナス、年間で4,400万円のプラスということは下半期で約6,100万円の利益が出るということですね。これは何か決定的なことがない限りは、こういう数字に非常になりにくいのではないかと思います。

診療科は変わらないということですし、医師の増員、看護師の増員は若干ありました。医師の増員についても内定が2名いて、交渉中が1名。それと研修医が来られる。これも決定打になりにくいのではないかなと思います。

もう1つの指標として、1日平均入院患者数が平成29年度中間報告から平成30年度末で、112.7人から150.1人ということは3割増ぐらいですね。1日平均外来患者数が158.8人から192人ということは2割増ぐらい。この辺の数字から見ていきますと、この実現度というのは非常に難しいのではないかなという印象を受けます。

それから、どれだけ信頼性がある目標値なのか、そこら辺についてご説明をいただきたいと思います。

詳しいデータを見させていただきましたが、平成29年度の半年前の実績と、それから今から1年先の計画ですね。1年半の開きがありますので、年度終わりから10日しか経過していないので数字を出すということは非常に難しいと思います。本当は3月31日に締めて、その実績とこれから1年先ということで、この今の時期が若干ずれても、例えばどれぐらいで決算ができるのかどうか分かりませんが、これからの1年先がどうなるという話のほうが、非常に信頼度が高い、あるいは評価しやすいものが出せる、そういうことになるのではないかなと思います。

その2点について、この時期にするということは一考していただいたらいいのではないかなと感じました。

【事務局(指定管理者)】 計画の数字に関しまして、当然、医師ありきの事業計画です。院長の方針としても、今年は4名から5名の常勤医師を確保するという意気込みで募集をかけております。今のところ内定しているのが2名、交渉中が1名であり、交渉中の1名も内定に結びつけたいという形でやっております。今、医師がいない診療科の医師を集中的にやっているわけで、その診療科を開くことにより増収増益を見込むという形になっております。おそらく上半期ではなかなかその結果が出ないということがあり、増員を図っていったら、下半期に計画を達成するような形になっておりますので、今回下半期が中心の形になっております。

市立病院の患者の動向から見て、冬場に外来患者、入院患者が増えていく傾向がありますので、それも含めて下半期に収益が上がるという計画になっております。

医師に関しましては、当然、募集していきます。先ほど看護師の話もありましたが、医師に関しても紹介会社からの紹介もありますし、大学関係のルートもありますし、あと常勤の先生方の情報、それから非常勤で来られている先生方の情報をもとに求人を図っていくという形でやっております。

今回は下半期に向けていかに人を集めるかということが第一の目的でありまして、集めることによって増益を図るといった形になりましたことから、下半期重視の計画になったということでございます。

2点目のお話になりますが、この収支計画につきましては、当然決算ということで、

事業報告が提出されるのが5月末です。5月末から状況確認しながら、それを精査して、そこから計画を出していくとなれば、かなり時間が経過してしまいます。それを避けるために、入院患者数と外来患者数が分かれば、ある一定の計算方法がございますので、あくまでも予定ですけども、収支計画をまとめることとしています。

【竹川会員】 収支決算の数字はさておいて、患者数であるとか、ほかの指数というのはそんな時間かからなくても統計はとれるわけですよ、毎日毎日の積算ですから。

そういうデータというのは、3月31日現在で入院患者数の平均はどうなっています。この辺の中間期と比べてこれだけ向上しています。だからこれから1年先もこういう線でいける予定だということであれば、かなり説得力が増すと思うのです。ですので、その点は次回から、この時期に会議を開催するということであれば、そういう工夫をしていただいたほうが理解しやすいというように思います。

【事務局(指定管理者)】 そういうこともあって「参考資料」をお渡しさせていただくことにしました。「参考資料」の2ページ目をご覧くださいと、ページの上部分の入院で、例えば2月の1日平均患者数は141.5人という数字がございます。これが平成30年9月の段階で150.0人ということで、2月に近い数字となっております。ちょっと頑張ったらその数字だというぐらいのところでございます。

それから、1日平均外来患者数につきましても、2月で194.4人ですので、平成30年の9月段階では181.3人ということで、平成31年3月の段階で192人ということでございますので、決してかなり高い数字ということになっているわけではございません。

【竹川会員】 「参考資料」を「計画書説明資料」の中に取り込むような形にさせていただいたほうがより理解しやすくなるかなと思います。地元の皆さん方の期待は非常に高いです。市立病院の建設計画ができた平成21年の4月に、ここに建てたいというお申し出が地元にあります、そのときに自治会の役員をしておりまして、皆さん応援しておりました。そういうことですので、ぜひ頑張ってくださいと思っています。

市立病院と医師会について、もっと連携していかないといけない。いわゆる病病連携みたいなものが、できてこないとなかなか経営がしんどいのではないかと皆さん大体そういうように思っておられるところが多いのではないのでしょうか。

市立病院を利用したら、非常にいい先生がいらっしゃるという、口コミですね。電車内広告よりも、口コミでその先生のところには行列ができるということ、そういう話も高齢者の中では伝わっております。自分のかかりつけの先生に聞いてみたところ、内情をご存じないのです。あそこはいい設備が入っているのでしょうかねと行って、それ以上の知識とか持っておられない。ですので、もう少しそのところをPRして、アプローチして理解を深めるということは目標に掲げていただいておりますが、生駒市民としてこの病院が本当に立派に成長していただきたいと思っております。

【小紫会長】 ありがとうございます。ご意見としていただいております。医師会の入会を目指して引き続き地域の診療、病診連携、病病連携もやっていくということで事業計画書にもありますので、医師会のほうにも働きかけ等を行いながらそういう方向でやっていくこととさせていただきます。

先ほどご指摘いただきました「説明資料」に速報値みたいな形で「参考資料」を入

れる。これで基本的に説明するというのであれば、次回からの資料は、年度末とかそれに近いような数字を少し参考に入れておくと、ご意見をいただきましたように、平成29年度の中間報告と平成30年度の事業計画書の間の流れというのが分かりやすいと私も思っていますので、少し資料の出し方等、工夫させていただきたいと思います。

それでは、藤堂会員、お願いします。

【藤堂会員】 この「事業計画書」につきまして、今後ご検討いただきたいのは、できましたら「事業計画書」のはじめのところに、市立病院がどういう病院を目指しているのかとか、生駒市の中での位置づけみたいな、概要のようなものがあれば分かりやすいかなと思いますので、ご検討いただけたらありがたいと思います。

【小紫会長】 例えば、どのようなイメージでしょうか。

【藤堂会員】 この市立病院が生駒市全体の医療の中でどういう位置づけで、それでどういう病院を目指しているのかみたいな、以前に院長先生が話しておられたような感じのイメージではあるのですけれども。

【事務局(市)】 市立病院の位置づけとか方向性とか目指すところというようなことになるのですが、この病院の位置づけ、基本方針というのは、生駒市病院事業計画という大きな計画に示されています。また、その基本計画の中でも基本方針というのが定まっており、市立病院のコンセプトとして、そこで定まっています。この事業計画は、このコンセプトを受けまして、具体的に当該年度で何をするのかというようなことを整理して記載しています。

事業計画に、基本方針あるいはコンセプトまで入るとかなりのボリュームになります。うまく入れることができるように工夫できればと思いますので今後の検討ということでお願いできたらと思います。

【藤堂会員】 そんなボリュームのあるものを記載していただきたいわけではなくって、その抜粋みたいな何かがあれば、事業計画でご説明いただいたようなものになるんだなというのが分かるかなと思いました。

【事務局(指定管理者)】 うまく盛り込めることができたらと思いますので、少し検討させてください。

【小紫会長】 大もとの病院事業計画の初めの基本方針とかに書いてあるコンセプトが今回の小項目になるのですが、基本となるのは病院事業計画の基本方針です。

そういうのは確かにあるかなと思いますが、この間、遠藤院長はこれにはもちろん基づきつつも、院長としての思いを相当具体的におっしゃっていたかと記憶していますので、院長とご相談して、どういう形のことを書けるのかとか、また藤堂会員がおっしゃっているような趣旨に答えられるようなことができるか相談していければと思います。

それでは、藤澤会員お願いします。

【藤澤会員】 開院からこの6月で4年目を迎えます。当初の計画どおり、まだ100%

にはなっていないと思いますが、徳洲会グループ病院の中で研修医を受け入れられているのであれば、脳神経外科とか心臓外科とかの先生方を市立病院に、1人でも2人でも派遣してもらえないのかということをお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 研修医制度というのは初期研修医と後期研修医というのがあります。初期研修医は医師免許を受けた後、2年間の臨床研修を受けます。ただ臨床研修は指定施設には基準がありまして、まだ当院は満たしてないので初期研修はとれない状況であります。とれるとしたら、先ほど話をさせていただきました後期研修医、今回は奈良県立医科大学から形成外科の後期研修医が来られるのですが、当院に指導医がいれば後期研修医としてこちらのほうに来ていただけるような状況にはなりません。ですので、例えば脳神経外科の後期研修医が来るためにはまず脳神経外科の医師を確保して、その医師が指導医を持っていれば、後期研修医に来ていただけます。

【藤澤会員】 ありがとうございます。

【小紫会長】 ほかによろしいですか。

それでは、年度事業計画書については以上ということにさせていただきます。大きな中身の修正というか大きなご意見はなかったと思います。平成30年度は、この事業計画書で頑張ってやっていきたいと。いただいたいろんなご意見がございましたので、それを具体的に形にできるような方向でこの事業計画書に沿ってしっかりとやっていきたいということですのでよろしくお願いをいたします。

大変貴重なご意見をいろいろとありがとうございました。

それでは、案件のその他としまして、会員の皆様、あと事務局から何かありましたらよろしく申し上げます。

【事務局(市)】 それでは、事務局から1点ご報告させていただきます。

次回の会議の開催につきましては7月ごろの開催を予定しております。昨年同様、平成29年度の生駒市立病院の事業報告書につきまして実施状況調査を行わせていただき、会員の皆様からご意見をいただく予定になっておりますので、よろしくお願いをいたします。

事務局からは以上でございます。

【小紫会長】 次回の会議は平成29年度の結果をまとめたものをご説明させていただくということになります。

それでは、案件は以上とさせていただきたいと思います。皆さんから活発なご意見をいただきありがとうございます。

それでは、平成30年度の第1回目の管理運営協議会は以上とさせていただきます。本年度も会員の皆様にはお世話になります。何とぞよろしくお願いをいたします。

どうもありがとうございました。

— 了 —